

議の冒頭よりも2週目に開かれることが多く、会議早々に各国代表と知り合うという役には立たない。

というわけで、私はこの自由指定席のために各国代表と知り合うまでの数日間は非常に苦勞をした。結局私は、ILOの日本人職員某氏に關係国の代表を紹介してもらい、後はいもずる式に顔をつなげることができた。

会議経験が未熟だったこともあるが、自由指定席が罪だったという一つの話である。

### レコード・ヴォートにご用心

ILOの委員会の採決は通常挙手によって行なわれるが、出席者の少くとも5分の1から請求のあったときは、記録投票を行なわなければならないこととされている。労働者側の修正案が少差で否決されたときなど、労働者代表からよくレコード・ヴォートの請求が出される。ところでレコード・ヴォートになると事務局員がまず政府側からアルファベット順に国名を読み上げていくのであるが、聞

きなれない国名が出てきて案外緊張するものである。(国名を英語読みするときとフランス語読みするときとで順番の変わる国がある。たとえば象牙海岸は、英語だと Ivory Coast でIの部になり日本のすぐ前だが、フランス語だと Cote d'Ivoire となってCの部となり繰り上がる。)

きて、よくある委員会での話。事務局員がアルジェリアから始まって、“ギャボン”と読み上げた時、日本の代表が突然“賛成”と叫んだということである。確かに“ジャパン”と音がよく以ている。とくに緊張して聞いている耳にはそう聞えてくるものである。ご用心、ご用心。

これはまた、ある大国際会議場での話。さる日本の委員が、“ギャボン”と呼ばれた時、やはり“賛成”と叫んだそうである。ところが隣に座っていた随員に注意されるヤサッと立ち上がり“オー・ミステーク”と手を振ったという話である。(金田伸二)

### 編集後記

「海外社会保障情報」は、海外の主要新聞やその他の定期および不定期刊行物に掲載された、各国における社会保障およびこれに関連する各種の動向を、できるだけ多くの人びとに伝えようとするものである。この小冊子の編集には、社会保障研究所長と若干の研究所員、および研究所専門委員から小山路男(横浜市立大学)と橋本正己(国立公衆衛生院)の両氏が参加し、さらに、研究所の外部から田中寿(国会図書館)、前田大作(全社協)、上村政彦(健保連)、および金田伸二(日本代表部、在ジュネーブ)と保坂哲哉(エカフエ、在バンコク)などの諸氏による御協力を得た。ここにこれらを記して謝意を表するとともに、今後、この小冊子をより一層充実させるために、広く大方の御批判と御協力をお願いする次第である。(文中敬称略)

### 海外社会保障情報 No.1

昭和43年1月31日発行 非売品

編集兼発行所 社会保障研究所  
東京都千代田区霞が関  
3丁目3番4号  
電話(580)2511~3